



IV-JAPAN

NEWS 【NO.1】 2004.1.5 発行

「国際ボランティアの会」は、
「特定非営利活動法人 国際協力NGO・IV-JAPAN」と
団体名が変更になりました。名前が長いので、これからは
「IV-JAPAN」（アイヴィ・ジャパン）と呼んでください。

新年おめでとうございます。

21世紀に入って早4度目のお正月を迎えておりますが、皆様いかがお過ごしでいらっしゃいますか。今年が世界中の人々にとって良い一年でありますよう、心よりお祈りいたしております。

さて、当会は1988年の設立以来15年余にわたり「国際ボランティアの会」の名称で親しまれ、多くの皆様にお世話になってまいりましたが、法人化にともない、去る2003年9月11日をもって団体名を上記のように変更いたしました。

なお、組織は法人として下記のように変りましたが、基本的には「国際ボランティアの会」の活動内容を継承してまいります。今後とも以前同様ご指導ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げますと同時に、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

●役員（理事12名、監事2名）

代表理事：富永 幸子
副代表理事：藤田 迪枝、森 祐次
理事：栗林 重夫、小林 明子、
豊田 利久、中村 千恵子、
早坂 健治、山本 圭一、
雪山 光恵、吉野 貴美子、
吉原 喜代
監事：飯田 昌美、菊池 正博
(敬称略)

●入会金及び会費

- 1) 正会員：入会金 10,000 円
年会費 1口 10,000 円
① 個人 1口以上
② 団体及び法人 5口以上
- 2) サポート会員：㊦ 奨学金ドナー
年1口 12,000 円以上
㊦ 国際協力費又は運営費ドナー
① 個人 3,000 円以上
② 団体及び法人 10,000 円以上

【特定非営利活動法人 国際協力NGO・IV-JAPAN】

日本事務所

〒331-0058 埼玉県さいたま市西区飯田426

TEL:048-622-8612 / FAX:048-625-0271

E-mail: iv-japan@cc.rim.or.jp

ラオス事務所

P.O. BOX 7920 VIENTINE, LAO P.D.R.

TEL/FAX: +856-21-26-1240

E-mail: ivjapan@laotel.com

<http://www.cc.rim.or.jp/~iv-japan/>

<03 年度主な活動>

●実施済み ◎実施中 ○これから実施予定

- タイの子どもたち120名・ラオスの職業訓練生124名に奨学金支給
*P.3, 4「カノック奨学金だより」参照
- ラオス・ヴィエンチャン職業訓練（木工家具）：埼玉県国際協力基金助成事業
*初級コース：4週間（9/22～10/17）、講師・ラオス人専門家、受講生・12名
*中級コース：4週間（10/20～11/14）、講師・日本人専門家、受講生・12名（初級修了者）
- ラオス・ヴィエンチャン職業訓練（理美容・調理・縫製）：JICA草の根技術協力
*2004年1月中旬にJICAと正式契約
*3月訓練開始予定、1年間・約1000万円の事業
- ◎ ラオス・シェンクアーン県山岳民族生活改善のための農業指導：郵政公社「国際ボランティア貯金寄附金配分金」&オーストラリア大使館DAP助成事業
*事業年度：03/7月～04/6月、シェンクアーン県ノンヘト郡の農村開発として初年度事業
- ◎ ラオス地元住民の職業訓練を兼ねた学校建設1校（平屋6教室）：個人（斎藤加代さん）寄付
*ヴィエンチャン市より車で40分のタソモ村小学校、03/9月～04/1月建設、2月贈呈式
- 日本人青少年会員対象・開発教育のための「第6回 ラオス・ワークキャンプ」
*03/9/10～20日、ヴィエンチャン市及びシェンクアーン県にて活動、参加者4名
- 成人会員対象・国際理解のための「第5回 ラオス・スタディツアー」
*03/11/1～9日、ヴィエンチャン職業訓練センターにて日本文化紹介・タソモ小学校訪問・タートルアン大祭参加・ルアンパバーン観光など、参加者8名（含・オランダ人女性1名）
- 日本ラオス文化交流事業：東芝国際交流財団助成事業
 - ① 第4回 ラオス青年民族舞踊団・日本公演
*6名（男女各3名）来日、東京銀座十字屋ホール(03/7/10)・川口リリア(7/11)、各会場2回公演
 - ② 日本人（スタディツアー参加者を含む）による日本文化紹介
*03/11/2、ヴィエンチャン職業訓練センターにおいて、書道・生け花・折り紙・日本舞踊・着物ファッションショー・着物着付け
- 高校生インターンシップ受入れ（女子高校生5名を4つのプログラムに受入れ）
*埼玉県国際課による新規事業、新規ワークショップ・ワークキャンプ事前研修・日比谷「国際協力フェスティバル」・けやき広場「国際フェア」、県国際交流協会での事前説明会・完了報告会&交流会
- タイ・ラオス民芸品などの展示・販売（各種国際フェアなどに出展）
*盆栽まつり、さいたま市国際フェア、ラオス舞踊団公演、日比谷国際協力フェスティバル、けやき広場
- ◎ アジアを中心とした世界民族衣裳の貸出し（約60点、随時申し込み受付）
*埼玉県国際交流協会（3回）、富士見市国際友好協会（1回全着）、大井町社会福祉協議会（1回30着）
- ◎ 活動報告・講演など講師派遣 その他
*郵便局関係、中学校、大学、さいたま市国際交流協会、その他

カノック奨学金だより

奨学金ドナーの皆様へ

2004年1月1日

代表 富永幸子（在ラオス）

奨学金制度も14年目を迎え、古いドナーの方、新しいドナーの方を思い浮かべながら、感慨深いものがあります。皆様のお陰でここまで続けてこられたことを感謝申し上げます。

ところで、昨年12月にタイ北部のチェンマイ県とチェンライ県の奨学金支給生に会いに行きました。ちょうど12月20日が奨学金の名前の由来であるカノック女史の81歳のお誕生日でした。カノックさんはタイのガールガイド(スカウト)連盟の創立者でもあり、私が1980年～81年にタイのバンコクに在住した時に青少年の人材育成について、多くのことを学ばせていただいた方です。高齢になり、バンコクのガールガイド会館に住んでいましたが、夜の一人歩きで帰れなくなったり、物忘れが始まりましたので、より安全なチェンマイのガールガイド会館に昨年9月より住んでいます。12月20日の誕生日には、80平方メートルの素敵な家を、皆の寄付で会館の敷地に建ててもらい、お坊様が5人も見えて新築祝いが行われました。人生を青少年と女性のために捧げた女性がようやく安住の地を得て、とてもうれしそうです。タイやラオスの人々はお年寄りをととても大切にします。

私のことは覚えていて、ラオスでの国際協力、職業訓練の話や新聞記事をお見せすると、「良く頑張ったね」と、誉めてくれました。来年はこの家に泊まるようにと言われました。私も人生の黄昏期を迎えておりますが、まだまだ健康で皆様に喜んでもらえる活動が続けられるよう願っております。

どうぞ皆様にとって良い一年でありますようお願いしております。ご協力ありがとうございます。

2003年度奨学金支給先

(1) タイ国 (120名)

- ①ピブン福祉財団を通して、受刑者の子弟60名に支給。両親のいずれかが刑に服している欠損家庭の子どもで、祖父母、親戚に預けられ、経済的に困窮している。親の刑期が終了すると奨学金支給は打ちきるが、刑の重い親も多い。
- ②ガールガイドタイ連盟を通してタイ東北部の学校4校の20名に支給。2,000パーツの内1,500パーツは各個人に、500パーツは出し合って、以下の事業に使用。
 - * ナコンラチャシマ県の学校はお菓子を作り、収入を給食に当てる。
 - * ノンカイ県の学校は養鶏に取り組み、卵を販売して収入を得る。
 - * サケオ県の2校はしいたけ栽培と手芸品を製作して、収入を得る。
- ③ガールガイドを通して、北部のチェンライ県、チェンマイ県、ランブーン県、パヤオ県の子ども達40名に支給。
各個人が2,000パーツを得る。奨学金は有料の教科書や文房具の購入に当てる。これらの県では結婚が13歳～15歳くらいの早婚で、離婚も多い。山岳民族もいる。日本人を父親に持つ子どもや、両親が行方不明又は出稼ぎで一年に一回位しか帰宅しないので、年老いた祖父母と生活している子

どもが多い。将来に不安があり、勉学意欲も薄れている。そのような環境で、自分を支援してくれる人がいるのにはとても勇気づけられているとのこと。

(2) ラオス国 (124名)

ラオスでは、主に職業訓練を中心に活動を行っていますので、以下の訓練生たちに奨学金を支給させていただきます。

①ヴィエンチャン職業訓練センター 31名

- * 縫製コースの訓練生 19名
- * 木工家具コースの訓練生 12名

首都ヴィエンチャンには、当会が日本のODA補助金で建設した職業訓練センターがあり、随時、木工家具・縫製・理美容・調理の4コースを実施していますが、今年度は理美容と調理がまだこれからです。

②学校建設訓練生 15名

学校建設があるときは、村民たちにも建設訓練に参加してもらい、学校を建てながら建設技術も身につけてもらいます。今年度は、斎藤加代さんのご寄付により、ヴィエンチャン市より車で40分程度かかるタソモ村小学校を1校建設することができました。この方式による学校建設は、これで4校目になりました。

③シェンクアーン県農業訓練コース 79名

- * 家畜飼育 42名
- * 果樹栽培 25名
- * 養蚕 11名

郵政公社の「国際ボランティア貯金の配分金」では、昨年度までシェンクアーン県において山岳民族女性のため、織物と縫製の訓練を7年間実施してきましたが、今年度より農村開発のため、果樹栽培・家畜飼育・養蚕などの農業指導を手がけています。より辺境の山岳地帯シェンクアーン県ノンヘト郡では、人口の9割が山岳民族で、麻薬になるけしの花栽培や焼畑農業で生活していましたが、政府の指導によりそれに代わる農民の収入源が求められるようになりました。そこで、当会では上記の農業指導を実施し、訓練参加者に奨学金を支給することにしました。シェンクアーン県の義務教育(小学校5年)の卒業率は約2割に過ぎません。ノンヘト郡は9割がモン族で、学校制度外教育の小学校2年程度終了課程で識字教育を受けても、新聞も本もない日常生活では、ラオ語でドナーの皆様に感謝状を書くのも難しく、意を尽くしたお便りになっていないことをどうぞご理解ください。また、非識字の訓練生には当 IV-JAPAN の駐在員や県・郡職員が代筆しました。写真が添付できませんでしたが、カメラが無く、写真を撮ることがなかったならです。来年は当会が写真撮ることにしました。申し訳ありません。

<サポート会員募集>

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆さまのご協力を、よろしくお願い致します。

郵便振替：00140-5-537168

カノック奨学金

<編集後記>

あっという間にお正月気分も吹き飛び、また忙しい日常生活が始まりました。どんな1年になるのでしょうか。この会の運営のことも世界のことも、先のことは全く不透明ですが、日々精一杯誠実に生きていく以外に道は無さそうです。

ところで、当会も法人化はしましたが、日本事務局が手薄なため、皆様には大変ご迷惑をお掛けしております。ご理解のうえ、今後とも益々のご協力をよろしくお願い致します。皆様にとって良い年でありますようお願いしつつ...

(尾嶋・植村)